

学生主導で防災プロジェクトを企画・実行

企業の防災活動への参加から、企業や大学と連携して行う事業に発展しました。



静岡新聞社・静岡放送 (SBS) TeamBuddy

所在地：静岡市駿河区
ホームページアドレス
<https://teambuddy.jp/>
TeamBuddy運営

企業

静岡県立駿河総合高校

所在地：静岡市駿河区
ホームページアドレス
<http://www.edu.pref.shizuoka.jp/surugasogo-h/home.nsf/IndexFormView?OpenView>
事業主体 発案 企画

学校

静岡大学 地域創造教育センター

所在地：静岡市葵区
ホームページアドレス
<https://www.shizuoka.ac.jp/education-center/>
教材開発

学術機関

SBS × 高校生、静岡大学 × 高校生、SBS × マックスバリュ東海 × 高校生など、学校を通じて行った様々な協働事業を、学校にやらされているのではなく、学生が「自分事」として捉えることができたため、自主的な活動に繋がり、企業もそれを後押ししました。

学生達が立ち上げた防災NPO法人

2022年2月、駿河総合高校3年生の藤本湧磨さんら生徒有志は、防災活動を行うNPO法人New Universal Act (以下NUA)発足しました。NUA発足のきっかけは企業や大学との協働事業。発足までの協働事業を紹介します。

きっかけは「Team Buddy」への参加

TeamBuddy(以下TB)は、防災減災活動をするSBSのプロジェクトです。TBは活動に若者も参加してもらおうと、2018年に民間企業等長期派遣型研修でSBSに勤務していた駿河総合高校の大川慎介教諭と、高校生が調査してまとめる「高校生防災特集」を企画しました。この時、地域防災に興味があった高校1年生の藤本さん達はこの企画に参加し、高校生90人に防災意識アンケートを行いまとめました。

大学・企業と協働事業で想いが熟成

翌年、駿河総合高校に戻った大川教諭は、授業に防災活動を取り入れ、TBの方から防災の話の聞いたり防災グッズ体験をしたりしました。また、生徒有志とTBの防災アプリの実証実験に参加しました。

さらに2020年、TBで出会った静岡大学地域創造教育センターの山本隆太准教授が、「静岡県の高校生が使う水防災教材」の開発を大川教諭に持ち掛けます。子どもの頃から静岡に住んでいる高校生は地域の実情を知っており、高校生の視点で教材を開発しようと考えたからです。高校3年生になった藤本さん達はこの事

業に参加し、山本准教授と教材開発を行いました。10月には、試作段階の教材を使って、藤本さん達が模擬授業を行いました。この教材は試行錯誤を重ね2022年度から高等学校地理歴史科に新設される「地理総合」で活用されることになっています。

また、藤本さん達は自主的に、中高生にも喜んでもらえる防災食レシピを作りたいと提案し、パディボックス(TBが提供する防災食セット)を作っているマックスバリュ東海との協働が始まります。2021年1月、家庭科や商業科の生徒らと共にオリジナルレシピを開発、TBサイトで公表しました。

このような活動を通じて、藤本さん達の防災活動への想いが熟成していきました。

NPO法人New Universal Act発足

その後、「今までの活動を何か残せないか」と考えていた藤本さんは全国の高校生による先進的な取り組みや、中学生が起業したニュースを見て、NPO法人を作ろうと決意します。先輩の姿を見ていた高校1年生の久保田さんは「先輩達が活躍している、カッコいい!」とNUAの社員になりました。他にも、消防士や医療関係の仕事を目指す後輩たちがNUAに参加しました。

2022年2月「防災教育の普及」「避難所運営の改善」「防災アイテムの開発」の活動をするNPO法人を発足し、さらに活動の幅を広げていきます。

Point

協働事例の多くはキーマンの存在が大きく、その方の熱い想いで動いていくことが多いですが、本事例は高校と企業・大学との協働事業を通じて、高校生達の想いが熟成し、NPO法人発足に至り、今後の活動につながっていきます。

これからの展望

県内で防災活動に取り組む高校の交流会を開催し、現在ばらばらに活動しているのを線で結び、さらに小中学校・大学と広げ、面にしていきたいと考えています。また中高生世代の防災意識を高めていくために、若者に浸透しているSNSの活用を検討しています。

